

ひびくする環境問題、生活者の側からどう捉え、どう考え、どう実行に移すかが問われています。会員を募集しています。問い合わせ、申し込みは左記事務局まで。



環境と共生

第2号

平成12年4月25日発行 発行：環境21世紀の会 編集：事務局 有村俊雄
住所：〒277-0042 柏市港北49-85 TEL：0471-74-2135 FAX：0471-75-7360

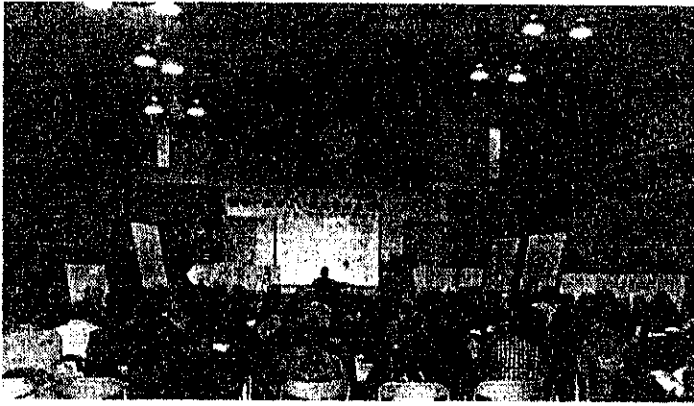
酪農油川サイクルの粉せっけん
せっけんの質
このせっけんは皆さんの家庭から出された
廃食油を原料に製造されています。
せっけんの購入、油の回収については
下記住所まで御相談下さい。
製造販売 株式会社 手賀屋せっけん
柏市小南29-2 電話 0471-32-1354
e-mail info@teganuma.com
URL http://www.teganuma.com/

強風下一七〇余人が参加

ごみ減量でシンポジウム 時間延長、熱心に討議

環境21世紀の会主催の「ごみ減量シンポジウム」が三月二十日午後、柏市の増尾近隣センターで開かれ、市民はじめ本多市長、市議、関係団体からの来賓を含め百七十余人が出席して盛大に開かれました。

当日は快晴でしたが、会場から幾々と始めかけ、風並みの風が吹き、会場用意された椅子はみるみるうちに埋めつくされて、しかし開会五分前ごろから続々と詰めかけ、三上会長あいさつのおとただちに始まりました。今回のテーマは「資源循環型社会を目指し—ごみの減量化への道—」。



170余人が出席して開かれたごみ減量シンポジウム

まず基調講演として「柏市のゴミ現状」と題し、市環境部グリーン推進課の倉澤隆課長は、現在の「ごみ処理体系から、清掃工場負荷軽減のための外部委託ごみと排出量の推移、さらに資源品の品目別推移や平成十年度の周辺都市のごみ排出量と柏市を比較するとともに、各市の焼却能力と柏市の一人当たりのごみ排出予測などをあげ、現在の市の焼却施設では限界が見回したとき、ごく身近に接したり、実感できる環境問題も少なくありません。

企業に「容器」を厳しく

容器包装リサイクル法が施行

ペットボトルやレジ袋など、資源減量化の対象品目を広げるとともに、中小企業にも費用負担を求め、「容器包装リサイクル法」が四月から施行された。年間五千万トンにはなるといわれる家庭系ごみのうち四分の一（重量）を占める容器や包装を減らそうと、これらをそのままだに、資源減量化や減量化など資源循環の仕組みにも課題が山積して

活動の広がりに期待

行政、企業を動かす生活者の視点

先日のシンポジウムでは、であったり勢の皆さまの出席を頂き、まや自然の生心からお礼申し上げます。存続にまで及び、そのスケールは大きく、環境を超えて、地球心へ、情報収集、研究、提言、広報活動を行って参りました。今回のシンポジウムもその一環として開催したのですが、

にあることを指摘し、一層の減量と資源化への協力を要請しました。続いて「廃棄物焼却方式から脱却—ごみ減量化への提言」と題し、当会の鹿毛剛副会長が、廃棄物減量化の現状を各種資料を示しながら国の排出量の右肩下りの方向を示したのに対し、柏市の「ごみ基本計画の排出量予測が右肩上がりで、困る方向に逆行していること」を指摘しつつ、各市の削減目標や減量作戦、生ごみの堆肥化などで、現行の焼却主流からの脱却を願いました。

今回のシンポジウムでは、台風のような強風の中をよよくこんな活動など、民間の熱心な取り組みが、柏市のごみ減量計画の姿勢についてでした。しかしボランティアの坂倉さんの生ごみ堆肥化の具体的研究、鹿毛さんの多角的な資料提供の熱意に、おぼろげの啓蒙に終止し、

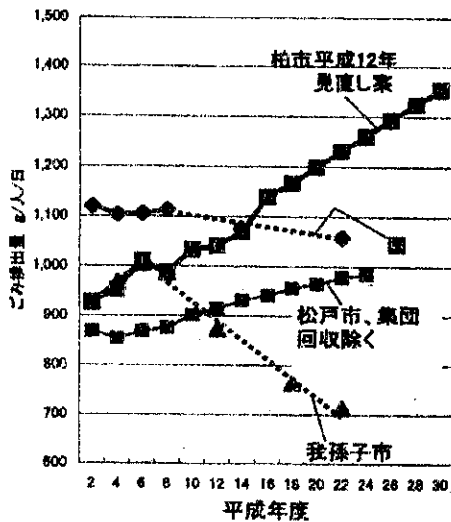
総会は5月21日
研究会も併催します
環境21世紀の会第一回
総会を左記の日程で開催
します。
当日は総会通常議案審議のほか、総会終了後、非会員も参加できるごみ減量の研究会(午後二時四十分～三時三十分、非会員は資料代五百円)を開催します。
△総会▽
日時 平成十二年五月二十一日(日)午後一時三十分～二時三十分
会場 藤心近隣センター 議事室
①平成十一年度事業報告並びに同年度決算報告(平成十二年度事業計画)並びに同年度予算案の役員改選②その他
総会の問い合わせは事務局へお願いします。

成長至上から循環型市場経済へ

トップ経営者の考えに変化

環境問題と一口で言ってもその広がりは途方もなく大きなものといえます。十八世紀の産業革命以降人間は便利なものも追求し続けてきました。その結果が先の大太平洋島サミットに見られるように、このままでいくと沈んでしまう小さな国も出てしまうという、地球の温暖化は深刻な事態となつていきます。このことを突き詰めて行きますとGDP(国内総生産)、つまり「経済成長至上主義」に行き着きます。去る二月に朝日新聞が主要二百社のトップに求めたアンケートでは、新しいライフスタイルの追求や環境、人口問題への配慮などから旧来の「豊かさ」を問い直す声が目につきました。GDP世界二位、しかし借金も世界一位、日本も開発型から循環型市場経済へ急務のようです。

1人1日当りごみ排出量実績及び予測



柏市のごみ処理計画はなぜ右肩上がりなのか

柏市は平成12年2月に一般廃棄物基本計画の見直しを始めたが、平成30年度のごみ搬出量(1人1日当たりの原単位、以下省略する)を1,353gと予測している。柏市のごみ排出量が何故右肩上がりなのか、平成10年度と比較して31%増量である。一方、松戸市は12%の漸増計画であり、我孫子市は29%の削減計画である。国は平成8年度に対し、平成22年度までに5%の減量化の方針をだしている。

柏市は、国のごみ減量化施策を無視して、ごみ排出量31%増の「ごみ処理基本計画」を清掃審議会に諮問して、原案通りに改定をしようとしている。清掃審議会は本当に事業者、市民の意見を代表しているのか。柏市当局が審議会委員の人選を行っている限り、反対意見を持つ人は委員になれない。地方自治体も国策に反し時代に逆行したことを審議会という隠れ蓑で決定していくことがあっていいものか。今こそ地方自治には市民本位の政策を取り戻す時期に来ている。地方自治体の政策決定及びその内容も世間の常識からずれているのではなからうか。

大都市は、ごみ減量化の目標を立て積極的に行動している

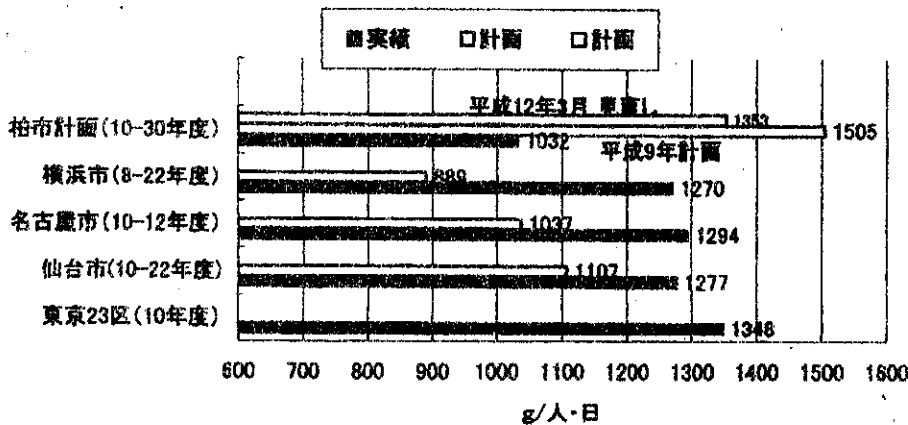
東京都23区は、行政、事業者、都民が協力してごみの減量化に努力した結果、毎年漸減して平成10年度には1,348gになった。横浜市は平成22年度に1,270gの30%削減の目標を立てて、減量化施策を実施している。

名古屋市は、環境保全の観点から藤前干溝を守るということになり、埋立て処分ができなくなった。

名古屋市の松原市長は平成11年2月18日に「非常事態宣言」を出して、事業者、市民に対して今世紀のうちに20万トンのごみ減量を実現し、新しい世紀を「ごみ減量先進都市」として迎えようとした。今世紀末の2年間で1人当たりごみ量を20%削減し、1,294gから1,037gにしようとするものである。

仙台市では「ごみ処理基本計画」の全面的な改定を行った。ごみの排出を抑制し、リサイクルを基調とした循環型社会経済システムを市民、事業者、市が協力して推進していくものである。藤井市長が陣頭指揮をとり「100万人のごみ減量大作戦」のキャンペーンをうっている。学校給食の施設等及び事業系生ごみの堆肥化、紙類の回収の徹底を図り、平成10年度の1,277gから平成22年度には13%削減して1,107gにしようとするものである。

1人1日当りごみ排出量実績及び計画

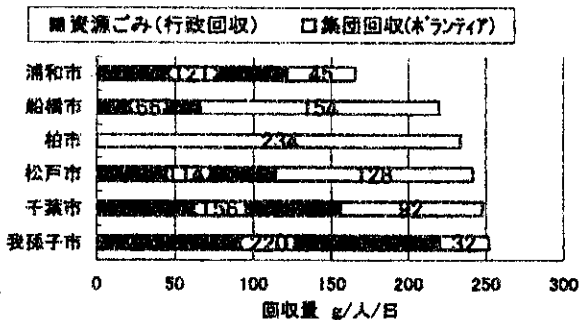


柏市発表の他市の資源化量データに誤り

柏市が発表した資源回収量(他市との比較)のデータには誤りがある。柏市は、このデータを使用して、柏市の資源化率が高いという広報活動をしている。資源回収には、行政の行う資源ごみ回収と集団回収(子供会、町内会のボランティア)の2通りがある。柏市の回収は1つの方法だけであり、行政が行っているのが本来資源ごみ回収と言うべきであるが、柏市の関係者は集団回収という呼び方をしている。

松戸市、我孫子市、浦和市など各市は、2通りの方法で回収しているの、その合計量が本来の資源回収量である。柏市発表の比較データ(平成9年度)によると、他市については集団回収量のみを使用しているの、少ない数字になっている。従って、柏市の1人当たりの資源回収量は、千葉県、埼玉県の中で234gで最も高いことになる。本当の正確なデータは図に示す通りの合計量であり、我孫子市、千葉県、松戸市に次いで4番目である。何故柏市は、こ

平成9年度資源回収量(1人1日当り)



いうデータを作成して広報するのであろうか。

紙を燃やすのは大問題である

焼却ごみの半数以上が紙ごみである。紙には印刷適性向上のために、炭酸カルシウム、滑石などの無機物が平均で8%添加されている。上質紙では約10%、書籍用紙は20%以上配合されている。生活実感からすれば、紙は重い、紙を切ると「はさみ」は切れなくなるとことが理解できる。

紙を燃やすと、多くの焼却灰が残る。最終埋立処分場は満杯であるので、深刻な問題である。しかも印刷インキの顔料には鉛化合物やカドミウム化合物があり、有害重金属を含む焼却灰及び煤塵が増える。煤塵は焼却灰より重金属が多く、特別管理一般廃棄物として指定され無害化処理が要求されている。

編集後記

★ごみ減量シンポジウムの特集号とした。ごみ減量シンポジウムには170人以上の方が参加して頂き盛況裡に終わった。内容については、表て面の記事としたので一読された。★東京、横浜、名古屋、仙台などの大都市も、ごみの排出削減、リサイクルに積極的に取り組み出した。柏市のごみ排出量は増えているので、柏市は「ごみ減量後発都市」として遅れをとることになる。★紙ごみはプラスチックと違って発熱も低く焼却炉を傷めることなく、また有害ガスを発生しないことでごみの中でも優等生として扱われてきた。紙ごみの問題点を紹介した。(T・K)